2025 年度第 2 回 一般社団法人日本箱庭療法学会研修会のお知らせ

主催：一般社団法人日本箱庭療法学会

日　時：　2026 年 2 月 15 日（日）12：00～17：30（受付 11：30～）
会　場：　AP 品川（東京都港区港南 1-6-31 品川東急ビル 8F）/Zoom

ご挨拶

日頃、さまざまな心理臨床の現場に携わっておられる皆さまには、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。2025 年度第 2 回の全国研修会を AP 品川で開催いたします。今回も、前回に引き続き、オンサイト参加とオンライン参加のハイブリッドで開催させていただきます。

全体会には、専修大学准教授・藤巻るり先生をお迎えします。藤巻先生は、子どもたちの中には「自」と「他」、「主体」と「客体」といった境界がまだ立ち上がらない、いわば「二」の成立前にある世界を生きている子がいるのではないか、という視点を提起してこられました。子どもの心的世界は本来、未分化の状態から始まり、他者との生きた関わりのうちに「二」が立ち上がり、その原初的な分割が質的に変容していく―そのプロセスを丹念にたどる研究を続けておられます。

今回のご講演では、『ワロンの心理学と発達障害の心理療法』をテーマに、ワロンが構想した「二が成立する以前の体験世界」という視座を軸に据え、子どものこころの発達を根底から捉え直す試みをご紹介いただきます。ワロン心理学は、分化以前の身体性・情動性に重心を置き、そこから「二」が生成していく過程そのものを発達の中心に据えた理論です。

藤巻先生には、この理論的枠組みをひもときつつ、未分化な体験世界を生きる子どもたちとの心理療法を、具体的な臨床場面に根ざしたかたちで語っていただきます。「二」が成立する以前の子どもの世界にどう寄り添い、どのように関係を編んでいくことができるのか―その問いに向き合うためのヒントが得られることと思います。

後半では、震災対策分科会を含め、6 つの分科会を設けております。事例を募集している分科会もございますので、どうぞ奮ってご応募ください。皆さまのご参加を心よりお待ちしています。

2025 年 12 月吉日

一般社団法人日本箱庭療法学会　研修委員長　岩宮恵子

＜開催要領＞

1．定　　員：オンサイト参加者　120 名
オンライン参加者　無制限

会場に来場いただく「オンサイト」参加と、Zoom を使用して視聴いただく「オンライン」参加を選択可能なハイブリッド形式での開催となります。

参加資格：心理臨床の事例に関して守秘義務を負いうる、以下の条件のいずれかを満たす方とします。
①一般社団法人日本箱庭療法学会会員
②箱庭療法を導入・または導入を検討中の児童相談所・児童養護施設等の心理職に従事されている方
③臨床心理学およびその関連領域で心理臨床の実践的な仕事に従事されている方
④心理臨床を専攻する大学院生

2．参 加 費：学会員：4,000 円　非会員：7,000 円　大学院生（非会員）：5,000 円

3．**研修ポイント**：全体会、分科会の両方に参加した方には、日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士教育・研修規程別項」第 2 条（3）「本協会が認める関連学会での諸活動への参加」の通り、受講者には 2 ポイント、分科会での事例発表者には 4 ポイントが付与されます。

4．研修内容

（1）**全体会：12：00～14：00**

テーマ：『ワロンの心理学と発達障害の心理療法』

講　師：藤巻　るり（専修大学）

発達障害が主体のなさと捉えられるようになり、主体の生成がテーマとなるプレイセラピーや心理面接の報告が増えている。一方で、このような見方は心理臨床業界全体では必ずしも主流派とはいえず、発達障害に対しては療育・訓練的なアプローチが選択されることも少なくない。そもそも主体の生成という課題自体を想定する立場とそうでない立場があるようだ。これは 100 年前に起きたピアジェとワロンの論争と同じ構図といえるだろう。ワロンの心理学は精神発生学ともいわれ、主体の生成を目論む心理療法が依拠しているユング心理学の考え方と驚くほど共通点がある。ワロンの心理学から考えられる発達障害への心理療法の意義について事例も交えて考えたい。

（2）**分科会：14：30～17：30**

以下の 6 グループに分かれ、分科会を行います。

概要の最後に＜事例募集＞の表記のある分科会では、事例発表者を募集しています。事例発表希望者は、「5．参加・発表申込について」をご参照の上、お申し込みください。

● **第 1 分科会　岩宮　恵子（島根大学/にしきまちオフィス）**

『「イライラする自分」との出会い―「夢」を通して再構築される思春期心性』

思春期とは、他者の不完全さを見抜いてしまうまなざしとそれでもなお、他者を求めずにはいられない心との間で揺れ動く季節である。無責任な大人、粗暴な同級生、理不尽な SNS トラブル―そうした現実を「おかしい」と感じとる感受性の鋭さがときに彼ら自身を傷つけてしまうことがある。このような思春期のセンサーは、世界の不条理を正確に捉えるがゆえに、絶え間ない傷を受けることにもなるので、身を守るために引きこもらざるを得ないこともある。今回は、不登校という形でいったん外界との距離をとっていた思春期女子が、毎回の夢の報告を通じて、自らの心の世界を少しずつ再構築していった過程について考えたい。また、彼女が語る「イライラ」という感情を、自己が生まれなおそうとする痛みのサインとして捉える視点からも見ていきたい。

（事例提供者：久武　愛実氏）

● **第 2 分科会　河合　俊雄（京都こころ研究所）**

『夢分析におけるコスモロジーの視点』

前近代の世界においては、祖先は山や海の彼方に還ってお盆に訪れてくるように、コスモロジーが存在していた。現代の心理療法において夢と関わる際にも、コスモロジーの視点は大切である。最近「夢分析によるコスモロジーの生成」という博士論文を提出した宮澤淳滋氏に事例を提供してもらい、検討したい。

（事例提供者：宮澤　淳滋氏）

● **第 3 分科会　桑原　知子（放送大学）**

『面接室「以外」でセラピストは何をするのか』

心理療法は、面接室で行われるだけではない。面接そのものも、面接室以外の場所で行われることも多い。たとえば、福祉領域における「生活場面」、医療領域における「ベッドサイド」、学校領域における「廊下」や「別室」などが心理療法の「場」として機能することもあるだろう。さらには、個人面接の場合でも、面接後に記録を書いたり、スーパーヴィジョンを受けたり、クライエントのことを考えたり、夢を見たりしており、けっして面接室だけで心理療法がおこなわれるわけではない。本分科会では、こうした面接室「以外」での心理療法について、とりあげてみたい。

＜事例募集＞事例などを募集します。「事例報告」だけでなく、「エピソード」でもかまいませんし、困った体験についての「質問」（どうすればよかったのか）でもかまいません。積極的に応募してください。

- **第 4 分科会　田熊　友紀子（代官山心理・分析オフィス）**

『発達的な特性のある子どもとのプレイセラピー～「寄り添うこと」と「ズレること」をめぐって』

子どもと関わる様々な臨床現場では、発達的な特性を持つ子どもとの出会いは多く、その見立てとともに関わり方の工夫が必要とされ、これまでもセラピストの主体性やコミットメントの重要性が言及されてきました。本分科会では、発達的な特性をもつ子どものさまざまな「ズレ」とともに、プレイセラピーに生じるセラピストとの「ズレ」の重要性について考えます。共感的理解としての「寄り添うこと」、自他の分化の萌芽となる「ズレること」がどのようにセラピーのプロセスを動かしていくか、事例を通じてイメージを深めたいと思います。

（事例提供者：松下　尋美氏）

- **第 5 分科会　藤巻　るり（専修大学）**

『プレイセラピーにみられる「二」の反転や交替やり取り遊びの意義』

発達障害的な子どもとのプレイセラピーでは、治療者とクライエントの役割が頻繁に交替したり、悪者とつかまえる側が反転するなど、相対するものの役割のどちらがどちらなのかわからなくなるような展開を見せることがある。これを方向性の定まらなさや自他未分化と捉えると治療の停滞のようにも見えるが、そうではなく、二つに分かれた上で互いが浸透し合う participation の段階（ワロン）と捉えると新たな展開への大事なプロセスと見ることもできる。ワロンの主体の発達論の視点から、そうした展開について考えてみたい。

＜事例募集＞上記のような展開がみられる事例がありましたらぜひご応募ください。

- **震災対策分科会　渡部　純夫（東北福祉大学）**

『東日本大震災と箱庭療法』

東日本大震災から間もなく 15 年の年月が過ぎようとしています。福島を除いて多くの地域がいろいろな面からの復興を推し進めております。しかし、福島はいまだに復興の道筋すら立っておりません。特にこころの問題は遅々として進んでおりません。15 年が一つの節目とさえささやかれている中、今回の研修会では、地元の 3 人の臨床心理士が経験し、感じ、味わった世界について触れてみたいと思います。7 年に渡り制作された箱庭の作品をもとに、臨床心理士が東日本大震災ならびに原子力発電所の事故から何をこころに刻むことになったのかを、改めてひも解いてみたいと思います。自分の震災から触発された心の世界を箱庭につづり続けた下田章子先生に、自分の内的世界について語っていただき、それを見守り続けた熊坂しのぶ先生に、その時感じたものを話していただきたいと思います。進行は渡部が進めます。どうぞ多くの皆様に参加していただけたら幸いです。

（報告者：下田　章子氏・熊坂　しのぶ氏）

5. 参加・発表申し込みについて

【参加申込】

当会ホームページ（http://www.sandplay.jp/training.html）および右記 QR コードの申込フォームよりお申し込み下さい。申し込みが完了しましたら、自動返信メールが送信されます（※パソコン、スマートフォン対応）。自動返信メールが届かない場合は、日本箱庭療法学会全国研修会事務局（training_jast@sandplay.jp）までお問い合わせください。

【秘密保持に関する誓約書の提出について】

参加申込フォームに誓約書の入力画面がございます。内容をご確認いただき、チェック入れてください。誓約書をご提出いただけない場合は、大会・研修会への参加をお断りすることになります。また、誓約内容に違反された場合、大会参加資格の停止、研修会参加資格の停止等の措置をとらせていただきますので、あらかじめご了承ください。

【事例発表申込】

上記の参加申込フォームよりお申し込みいただけます。事例発表を「希望する」にチェックし、申込フォーム上にある＜事例概要記入シート＞にご記入の上、別途メール添付で日本箱庭療法学会全国研修会事務局（training_jast@sandplay.jp）までお送りください。参加申込締切後、事例発表の可否について、事務局よりご連絡いたします。

※＜事例概要記入シート＞は、当会ホームページからもダウンロードしていただけます。

※ 事例発表申込締切：2026 年 1 月 9 日（金）

※ 参 加 申 込 締 切：2026 年 2 月 4 日（水）

・お申し込みは原則として先着順です。

・分科会コースの通知はおこないません。お申し込みいただいた分科会で受付けさせていただきます。

・定員となった分科会より締め切らせていただきます。希望者多数の場合にはご参加いただけない場合もございますので、あらかじめご了承ください。

6. 参加費振込みについて

・自動返信メールを受領後に、以下の口座へ参加費をお振込みください。

＜郵便局・ゆうちょ銀行から振り込まれる場合＞

振 込 先： ００９００－８－２３３７８８

加入者名： 一般社団法人日本箱庭療法学会研修委員会

＜他金融機関から振り込まれる場合＞

銀行名：ゆうちょ銀行

店番：099

預金種目：当座

店名：〇九九店（ぜろきゅうきゅう店）

口座番号：０２３３７８８

・お振込の際に、自動返信メール内に記載されている【受付番号】をお名前の前に必ずご記入のうえ、お手続きください。（例：8528 ﾊｺﾆﾜﾀﾛｳ）

・振替用紙を使用される場合、通信欄には「2025 年度第 2 回全国研修会参加費」と自動返信メール内に記載されている【受付番号】とお名前をご記入ください。（例：8528 ﾊｺﾆﾜﾀﾛｳ）

・納入された参加費の返金はできませんので、あらかじめご了承ください。

※ 参加費振込締切：2026 年 2 月 6 日（金）

7. 参加証について

オンサイトで参加された方には、当日受付にて参加証をお渡しいたします。参加証が研修会証明書の代わりになりますので、大切に保管してください。

オンラインで参加された方には、終了後にメールにて送付いたします。送付までにお時間を頂戴いたしますので、ご了承ください。なお、終了後 1 ヵ月を過ぎても届いていない場合は、training_jast@sandplay.jp までお問い合わせください。

8. 会場案内

＜電車でお越しの場合＞

各線「品川駅」港南口より徒歩 6 分

＜お車でお越しの場合＞

近隣の有料駐車場をご利用ください。

詳しくは、AP 品川のホームページをご参照ください。

（https://www.tc-forum.co.jp/ap-shinagawa/access/）

9. 研修会に関するお問合せ先

一般社団法人日本箱庭療法学会　全国研修会事務局

E-mail：training_jast@sandplay.jp